

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100301		
法人名	株式会社 リハビリサポートまこと		
事業所名	グループホーム やよい(第1ユニット)		
所在地	釧路市弥生1丁目3番19号		
自己評価作成日	令和1年10月18日	評価結果市町村受理日	令和2年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100301-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に恵まれ、いつでも窓から海を望むことができる。 ・認知症の症状が進行しないように、午前と午後健康体操とレクリエーション、歩行訓練を実施。又、口腔機能向上の為、歯科医師と言語聴覚士との連携を行い嚥下体操や口腔ケアに力を入れている。 ・イベント時には2ユニット合同のレクを実施し交流を行っている。 ・地域の協力を得て、駐車場にて「夏祭り」を行っている。又、町内会へ入り、盆踊りへの参加。 ・入居者・家族・職員・地域の方や事業所に関連のある方々と大忘年会を開催している。 ・入居者・家族・職員で動物園レクを開催している。 ・キャリアパス支援研修事業へ積極的に参加し職員の知識・技術向上に努めている。 ・毎月10日発行している「まこと通信」(インターネットでも閲覧可能)に、入居者様の生活の見える写真を掲載しており、ご家族様や地域の方々々に好評である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は閑静な住宅地の一角に立地し、太平洋を一望できる恵まれた環境にある。隣接して小規模多機能型居宅介護事業所があり、運営推進会議や防災訓練などを合同で行い事例を共有して質の高いケアに努めている。当法人はリハビリテーションの専門家が設立し、リハビリテーションを通して「その人らしく」「いつまでも健康で」あり続けられるように健康体操、歩行訓練、嚥下体操、口腔ケアなどで認知症が進行しないように努めている。年6回キャリアパス支援研修講習会を開催し、利用者、家族、職員、地域住民、他社事業所関係者が参加して、知識の向上と地域交流に繋げている。また、中学校の職場体験、地域のボランティアを受け入れ、地域貢献と交流に取り組んでいる。災害時の避難がスムーズに行えるよう、代表者の意向で階段壁面に折りたたみ式滑り台や、非常口の階段横には滑り台が設置されている。職員は利用者と家族の関係を大切に、家族の協力を得ながら事業所行事を行い交流を深めて家族からも喜ばれている。職員は利用者1人ひとりに笑顔で対応し、利用者は会話したり、海を見たりしてゆったりと寛いでいる。</p>

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の休憩室へ掲示。毎朝、理念の読み上げを行っている。職員と共に理念を考え、共有しケア会議やユニット会議にて意見を出し合い利用者の尊厳や自己決定を大切にしている。	理念を職員休憩室に掲示し、朝礼で唱和して職員で共有している。定期的な会議で意見を出し合い理解を深めながらケアの実践に結び付けている。	定期的な会議で、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、現在の理念の見直しを検討する事を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	まこと夏祭りの際に地域の方への訪問を行い、参加の呼びかけを行っている。また、ボランティアを招き定期的に日本舞踊や賛美歌の合唱を行い交流を行う。	町内会に加入しており、町内会の行事に参加して地域住民と交流を深めている。事業所行事にも地域住民の参加があり、地域交流が行われている。定期的にボランティアが来訪して日本舞踊や賛美歌の合唱を行って交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャリアパス支援研修事業にて一般・職員向けの講習会を実施し、講師は当職員又は外部から先生をお招きし理解を深めている。また来所されたご家族にはその都度、認知症状や日ごろの報告を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の開催で、民生委員、地域包括、教授、ご家族等の立場からの意見や情報を受けている。特に入居者様・ご家族様の意見を取り入れ改善や新しいことを実行しサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1度定期的に開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、知見者、利用者、家族などが参加して、運営状況の報告や行事報告等を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話やメールで情報交換を行っている。又、必要に応じて担当者とは面会し質問や相談を行っている。	市の担当者には電話やメールで情報交換を行った。必要に応じて管理者が出向き担当者とは面会し、報告や相談を行って協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・具体的な行為を職員ノートや会議議事録に記載しておりいつでも見ることが出来るようになっている。 ・ご家族様との理解の上、離設を防ぐため、玄関施錠を実施している。	拘束委員会が毎月会議を開催し、会議の中で具体的なケースを取り上げて身体拘束の内容を理解し、拘束の無いケアに努めている。また、身体拘束廃止防止のマニュアルを作成し、全職員が研修を行ない理解を深め、実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やキャリアパス支援研修事業に参加し虐待防止法について学んでいる。また、具体的な行為を職員ノートや会議議事録に記載しておりいつでも見ることが出来るようになっている。又、定期的に身体拘束等の適正化の為の指針を元に勉強会を行っている。		

グループホーム やよい(第1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様は2名おり、定期的に連絡、または書類郵送にて利用状況をお伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は入居の際、契約書・重要事項の説明・同意書等の説明を十分に行い、ご入居者様やご家族様の疑問・質問に答え、理解・納得してもらうように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時にご家族様に生活状況をお伝えし、意見や要望を聞いている。また運営推進会議の際、ご家族様や民生委員などの意見や改善案を取り入れ、運営に反映させている。 ・玄関に目安箱を設置し定期的の中を確認している。	利用者からは日常の会話や生活の中で意向の把握に努め、家族等には来訪時などに利用者の生活の様子などを報告し、意見や要望を聞いている。遠方の家族に「まこと通信」を送付して電話等で意見や要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員の誕生会を毎月開催し、職員の意見や提案、悩みを聞いて、管理者へ改善策や意見を反映している。また、管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを積極的に図る他、ケア会議やユニット会議、勤務後の雑談を通して意見を反映するよう努めている。	管理者は日常の業務や職員会議で意見や要望を聞いて検討し、運営に反映させている。また、法人の代表者との面談の機会を設ける等、風通しの良い環境を作って意見や、提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者より、職員がどのようなケアをしているか年2回の面接を行っている。その際、業務の振り返り、目標、悩み事を聞き対応している。又、就業規則をいつでも閲覧できるようになっており給与水準や労働時間等を確認できる。今年から毎月、代表者・管理者・リーダー会議を実施しており安心・安全なサービスを話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員については、入社1ヶ月間レポートの提出を行い、研修の内容・利用者様とのかかわりを報告することでケアの実際と力量を把握している。又、年間を通じ、当職員または外部講師を迎え、キャリアパス支援事業や資格取得に向け勤務表の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や情報交換会の回覧がある場合は職員休憩室に提示している。又、必要に応じて勤務の調整を行い参加することでサービスの質の向上を図っている。		

グループホーム やよい(第1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で情報収集や生活状況を把握し、本人の希望や不安等を理解するよう話し合いを行っている。又、意思疎通が難しい場合はご家族様からも話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様より要望があった際には、事業所としてどのような対応をどこまで出来るか具体的に説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に見学や面談で本人とご家族様の意向を確認し可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に暮らす者同士として思いを共感することに留意している。又、自立支援に向け、本人が出来るところを見極め自立を促している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の生活を伝えることで、今の状態を知ってもらい、それに合った支援方法をご家族様と考え支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い入れのある場所へ足を運んだり、ご家族様や友人、知人など常時面会の受け入れや電話での交流を行っている。又、馴染みのある写真や物を持ってきていただいている。	友人・知人の訪問など積極的に馴染みの関係継続ができる支援を行っている。家族等の協力を得て、馴染みの美容室に行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を大切にしながら、リビングで会話がしやすいようテーブルや椅子の位置を考え環境の設定(食事・おやつ・体操などの余暇活動含む)を行っている。		

グループホーム やよい(第1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時に定期的にご家族様へ連絡をしている。またお見舞いに行き関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様から今までの生活暦をお聞きし、本人にとって居心地のいい環境と、本人主体の生活を支えるよう努めている。	日々の暮らしの中や何気ない会話から思いや意向を把握している。困難な時は家族と相談しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様からの聴取、又は前担当の介護支援専門員や地域包括支援センターからの聴取に努め本人の今までの生活を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言葉、行動を通して、その日の状態を生活記録に記載する。又、ケアカンファレンスで話し合いや申し送りノートを活用することで職員間で情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望を聞き、ケアカンファレンスを毎月開催。介護支援専門員や介護職員、看護師、場合により医師・OT・STの意見を参考に作成している。	利用者や家族の意向を反映させて、職員の気づきを加え、職員会議で見直しをして、6ヶ月毎に介護計画作成担当者が作成し、家族へ説明して確認印を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別生活記録・職員申し送りノートに記載している。朝の申し送りやスタッフ交替時には口頭での申し送りを行う。また必要に応じてコルクボードを使用し職員間での情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズには出来るだけ対応し職員間でのノート記入や口頭で情報共有を行い個別ケアを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入、地域行事(盆踊り)に参加、中学生の職場体験、地域のボランティア活動(フラダンス・太鼓・民謡・合唱)も年数回あり入居者に喜ばれている。運営推進会議参加者やお世話になっている方を招待し、大忘年会も開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に月2回の内科の往診と不定期に歯科往診を行っている。また病院受診時は送迎を行いご家族にその都度情報の提供を行っている。他、緊急時は救急車を呼ぶなど柔軟な対応を行っている。	利用者、家族の意向に添ったかかりつけ医受診を支援している。往診が月2回、不定期に歯科往診もある。定期受診時には職員が同行し、家族にその都度受診結果を報告している。	

グループホーム やよい(第1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は入居者のバイタルの確認と利用者一人ひとりへの声かけを実施。介護職員は気付きや変化を看護師へ報告。指示を仰ぎかかりつけ医への連絡や、ご家族への報告を行い必要に応じて病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会の際には、担当看護師や医療相談員と面会し現況についての情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今現在、看取り対象の利用者はいない。また食事が進まない方がいるが栄養補助食品にて生活している。今後、補助食品が摂取できなくなった場合は家族と相談することで話をすすめている。	入居時に本人と家族に重度化した場合の指針について説明し確認を得ている。看取り体験があるが、これからは増えていくことを考えた看取り対応を日頃より会議の中でも話し合い、不安なく取り組めるように医師との相談や支援を得ながらケアに取り組んでいく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼夜の急変時対応マニュアルに沿って、管理者・看護師や往診医に指示を仰ぎ対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防と防災システムの方と連携し訓練を実施している。又、避難誘導方法にて隣接する事業所と連携し避難の応援をお願いしている。	災害避難訓練を消防署・防災システムと連携しながら隣接する小規模多機能型事業所と合同で年2回行っている。今後災害増加を想定して「複合災害シミュレーション」を踏まえた「災害マニュアル」見直しを考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の今までを受け入れ、出来る限り人格を尊重している。又、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉の使い方に配慮している。	利用者個々の人格に配慮している。接遇に対してもプライバシーを損ねない様に言葉の使い方に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し出来る限り本人の意向に沿った支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に出来ることを生かしながら退屈しないよう支援している。又、日によっては実施出来ないときもあるが無理せず支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人にあった髪型を外部の美容師にホームに来ていただいている。また、美容室へ行っている方もおり、身だしなみには気をつけている。また、季節に合わせて、衣服等おしゃれができる様に支援している。		

グループホーム やよい(第1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と話をしリラックスした音楽を流しながら一緒に食事を摂っている。また、料理や後片付けについて下膳やテーブル拭き、食器拭きを手伝っていた。	音楽を流して職員と利用者は会話をしながら食事を楽しんでいる。健康状態により刻み食等に変えながら楽しい食事を提供している。後片付け、下膳、テーブル拭き、食器拭き等利用者の残存能力に応じて行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事量や水分量をチェック用紙に記載し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアと義歯は夕食後に消毒を行っている。必要に応じて歯科往診を行い、義歯調整や義歯を作成するなど、口腔ケアの指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握している。またプライバシーを損なわないような声掛けや排泄中は安全を確認し一旦離れるなど配慮を行っている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、表情やしぐさに気をつけながら、声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探ると共に、食事量、水分量の把握と適度な体操や歩行訓練を行っている。また主治医の指示を仰ぎ、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている利用者様がおり、本人と家族との同意の下、曜日を設定している。また湯船の温度を気にされる方がおり、適温に近づけるよう配慮している。	週2回を目安にして入浴を実施している。利用者の希望を取り入れ家族の同意の下入浴日を設定している方もいる。要望によってはシャワー浴や足浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動により、生活リズムを整え、夜間の安眠に対応しているが、不安で眠れない利用者様に関しては、話を聞き本人の不安を取り除くことで安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際、薬名が記載されたシートを職員が確認し利用者様が確実に服用しているか目視確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技等を把握し、その人に合った役割や楽しみを活かせるような声かけを行う。また他の利用者でも出来るように職員が介入し支援を行っている。		

グループホーム やよい(第1ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外で体操や散歩・展示鑑賞やドライブ等を実施している。また、家族様と動物園へ外出したり、本人と家族で外出されることもある。	天気の良い日には散歩や広い駐車場で体操したりと外気に触れる等の支援を行っている。また、家族の協力で動物園に行ったり、事業所の忘年会には一緒に参加をして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持をお断りし立替にて対応している。また、預かり金も行っていない。例外として希望者のみご家族様の同意の上、金銭を所持している。買い物もご家族様に連絡の上、職員が同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人又はご家族様の希望により携帯電話の所持やご家族様の同意の上、自ら電話をかけることを支援している。また、手紙も同様にやり取りができるように、ご家族様へ直接渡したり、送るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン是对面式で入居者様から食事準備の動きが見えて五感を刺激している。日中はソファや椅子、居室で入居者様が自由に過ごしている。居室からは海が見え日当たりが良い。	共有空間は広く、居間は明るく日差しが入り込み、利用者はゆったりと寛いでいる。対面式の台所からはまな板の音や煮物の匂いがしたり家庭的な雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに集ったり、他居室へ訪室したり、他階へ遊びに行くなど自由に過ごせる環境づくりに努めている。また、仲の良い方など配慮しながら、リビングの席を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際はご家族様と相談して、使いやすいもの、以前使っていた家具や小物など、馴染みの物を搬入し落ちついて過ごすことができるよう空間作りに努めている。	クローゼットとベットが備え付けられ、窓からは海に沈む太陽が美しく見えて素晴らしい。使い慣れた家具や馴染みの物、仏具を持ち込んで居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉付近にネームをつけている。又、建物内に手すりを設置したり、分かり易い環境づくりに努めている。安全に配慮し全フロアーがバリアフリー構造となっており安心して生活することが出来る。		